

鳥取こども学園 学園だより



第47号
2020年5月22日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>

題字 尾崎悌之助

チャンスはペンチの顔をしゃっぺる

児童心理治療施設

鳥取こども学園希望館

館長 花川 治 応



この原稿は4月上旬に書いています。この「学園だより」が発行される6月にはどうなっているのでしょうか。終息の目途がたつて安堵しているのか、ウィルスとの戦いの真っ最中なのか？今年の初めには想像もしていなかった事態が、山陰の冬の空、鉛色の雲のよっくにじわじわと不気味に広がってきている状況です。

感染防止のため、保護者をはじめ見学者などの訪問を当面5月末までご遠慮いただく対応をとっております。おそろく6月も延長せざるを得ない事態になるとの覚悟もしております。ご不便をおかけしますがご理解とご協力をお願いすることもにご協力を頂いております。ことに感謝申し上げます。

一方で、休校や外出自粛のおかげで学園の敷地では子ども達が元気に遊ぶ姿と歓声が日常の光景になっています。久しく目にしなかつた異年齢の子ども達が集って遊ぶ風景はまるで一昔前にタイムスリップしたような懐かしくほほえましい感じがさえます。

地元の鳥取東中学校の卒業式で校長先生が「チャンスはペンチの顔をしてしゃっぺる」との挨拶をされました。今まさにこの状況をチャンスに捉えて、子ども達と一緒に生活を送りたいと思います。

今回の事態は、今まで学校に無意識に頼っていた子育て部分をもう一度自分達の事として考え直す機会になったようにも思います。職員の素早い変化も見られます。休校になった時点でいち早く日中の楽しみを支援できるよう「希望館フリースペース」構想を職員が発案し、保育士、指導員のみならずセラピストや栄養士など多様な職種スタッフが協力して子どもと相談しながら遊びや学習やおやつ作りを始めました。当初は臨時的なものとして受け身であった職員も徐々に楽しそうに関わる自然な姿に変わってきました。

理念として頭で理解していた「子どもとともに。(一) 体感」を肌で実感している日々です。

子どもと生活するという事の意義で「学校」といつ日中の大きな部分が無くなったことで、かえって真剣に捉え直さねばならなくなった。子どもと向き合うことを常に意識する貴重な機会になったように思います。こんな状況でも子どもは本心に柔軟です。形式にとらわれることなく自由な発想で楽しんでおり、改めて子どもは遊びの天才なのだと思われ入ります。職員は「子どもに学ぶ」ことの大切さも身をもって感じている毎日です。

今までの生活パターンが当たり前でなく

むしろ「学校」を中心としてマンネリ化していたのだと思われ知られています。生活すること、子どもを育てること、更には「生きること」がいつの間にか分業化してしまい、全体像を見失い、分担した一部分しか見えていなかったのではないかと。子育て(一)とともに暮らしを整え生きる事(二)を軽視して経済活動(お金を生み出し使うこと)を優先する大人の都合で生活全体が構成されてきた近年の社会のひずみがDVや児童虐待問題として子ども、家族・家庭に表れていたのだと思えてなりません。

鳥取こども学園は1世紀以上の長い間、多くの方々のご理解とご協力、ご支援を賜りながら「小さくされた人」とともに生活を続けています。世の中が不安定な時こそ、小さくされた人とともに生活することの本当の素晴らしさが浮かび上がるように思う次第です。

それは不条理(思い通りにならないこと)を抱えながらも過渡です日々の中に見つける光こそが本物の希望(光)であると実感する瞬間の素晴らしさではないかと思う次第です。

もちろん職員の努力だけでは当法人の取り組みは百年以上も続けていけません。当法人の活動を変わずにご支援、ご協力をいただいております皆様にあらかじめ敬意をこめて感謝を申し上げます。

「チャンスはペンチの顔をしてしゃっぺる」この言葉を合言葉にこの重苦しい時を子どもとともに、そして関わる全ての皆様とともに過ごしていく覚悟です。本年もごっごよよろしくお願ひ申し上げます。

法人本部

理事長
藤野興一 記

コロナに負けず、民間社会事業の原点に帰ろう

「暴力の連鎖を断ち切り、人間の尊厳を守り抜くために、行ないが伴わないなら、信仰はそれだけでは、死んだものです。」(ヤコブ2:17)はじめに

コロナウイルスが世界中で猛威を振るっています。人類の歴史は感染症との闘いの歴史であり、その闘いの中から医学の進歩や社会文化の転換が図られてきました。

グローバルズムから一転して自国一國主義・新自由主義がはびこり、大災害頻発と社会的混乱が世界を覆っています。

東北大地震・大津波と福島原発事故とコロナパンデミックは人の生き方そのものの見直しを迫っています。

I 2019年は世界人権宣言70年、子どもの権利条約採択30年、日本国批准25年にあたります。

1939年ナチスドイツとソ連軍のポーランド侵攻分割支配以降、アウシュビッツやトレブリンカ強制収容所で、障がい者、ロマ(ジプシー)、ユダヤ人を次々大量に殺害しました。559万5千人〜586万人と言われています。今の世界は第一次大戦、第二次大戦前夜によく似ています。

二度と戦争を繰り返さない平和と社会的正義実現への決意を固めねばなりません。

①今、世界中で子どもたちが飢えや暴力で殺され続けています。

II 鳥取県に子どもたちと共に闘うアドボ

園「殺傷事件等、無差別殺傷事件や「栗原心愛ちゃん虐待死」など小さくされた者への暴力が繰り返されています。私たちは、当事者の悲痛な叫びを受け止め、彼らと共に闘い続けるしかありません。」

②この間、緒方貞子さん、中村哲さん、等の偉大な実践家を亡くしました。

石井十次はじめ日本のキリスト教社会事業の先駆者達は、歴史の希望実現へ向けて、実に創造的に、目の前にいる生身の人々と共に歩んだ方々です。

緒方貞子や中村哲、石井十次たちに共通するのは、ゆるぎない信仰と精神、理念に基づいた現場主義とでも言うべき、正義と平和を求めて民衆と共に歩む、祈りの内にあきらめることのない実践にあります。

③虐待とは暴力の形態によるのでなく、子どもを無条件で受け止めていかどづかが問われるのです。

「栗原心愛ちゃん虐待死」事件では、心愛ちゃんの痛みを誰も受け止めていない。心愛ちゃんの「暴力を受けています。何とかありませんか!」という必死の訴えを、両親は勿論、学校も教育委員会も兄相も受け止めないばかりか、父親に文書を渡し、身柄まで渡してしまっている。大切なのは、養育者が子どもを丸ごと受け止めることです。

④2017年8月「新しい社会的養育ビジョン(新ビジョン)」が国から出されました。

新ビジョンがモデルとしている欧米諸国では、施設から里親へ移行した結果、里親が職業化し、子どもの「たらいまわし(ドリフト)」が大問題となつていきました。欧米諸国で既に破綻している施設解体論を、現場を知らない学者や政治家が無責任に日本に持ち込み、空論を展開しているのです。

カシーを構築したい。

大切なのは「権利ベースの文化」を構築することです。児相や役所などの公的機関や法律だけでは不十分です。「子どもの為にではなく子どもと共に歩むアドボカシー」を施設等で暮らす子ども、インケアユースたちと共に創りたい。

①2018年7月金沢で「第1回インケアユースの集い」、2019年8月、鳥取で第2回インケアユースの集い、2019年12月1日、鳥取県下の施設の子どもやカナダに行つた高校生たちが中心となりHome & Hope(略してH&H)の会を立ち上げました。Hopeは「希望」とHomeは「自分たちの居場所、心の故郷」と命名しました。

②H&Hの会の高校生・ユース達の精力的活動の結果、12月18日と20日の集会は、鳥大の階段教室を埋め尽くす300人規模の集会となりました。県下の施設の子どもやOB・OG達、多くの県会議員、行政関係者を結集し、アーウィンエルマンの卓越したグループワークに導かれて極めて感動的なスピークアウトが展開され、平井知事や石破衆議院議員、舞立参議院議員からのメッセージもいただき、鳥取県に子どもを中心に据えたアドボカシーを立ち上げること宣言しました。

③更に12月22日、「日本子どもの虐待防止学会神戸大会」に於いて、鳥大の畑千鶴乃さんのコーディネートでアーウィンと私とトロント在住の菊池幸士さんと「カナダのアドボカシーと日本のインケアユース交流会の今後を語る」シンポジウムを開催し、全国に発信しました。

III まとめに変えて

①今世界中で、また日本で、毎日のように

子どもが暴力により殺され続けており、誰にも受け止めてもらえず、孤立し絶望した若者による「無差別殺人事件」が繰り返されています。何としても事前に歯止めをかけねばなりません。大舎だろつが、小舎だろつが、里親だろつが、養子縁組だろつが、常に「子どもの人権」は守られねばならないのです。

②日本の社会的養護は慈善事業の時代から、制度があつても無くても目の前の小さくされた生身の子どもたちに寄り添い続けてきました。今一度日本の民間社会事業の原点に立ち帰りたいと思います。欧米の破たんした制度ではなく、日本で営まれてきた民間社会事業の献身性と専門性を活かした「日本型社会的養護」の構築が急がれます。何よりも現実から、現場実践の積み上げの上に、当事者に寄り添い共に歩みたいと思つたのです。

③当事者と共に歩むこの闘いが、この混とんとした社会を変え、戦争や差別や貧困や自然破壊を食い止める大きなつねりになると確信します。ご支援ください。

新任職員のご紹介



事務員
坂本友明

輝かしい歴史と伝統を誇る当法人で働くことができることを嬉しく思います。微力ではありますが、法人本部をはじめ、施設の子どもたちや施設で働く職員の皆様のお役に立てるよう、努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

児童養護施設

鳥取子ども学園

地域で子育て文化を創る
—「たちかわこどもクラブ」を通して—

主任・職業指導員

竹本 智恵

社会福祉法人鳥取こども学園は、今年で創立114年を迎えています。昭和19年に現在地に移転しています。それ以来、地域のご理解とご協力に支えられて、地域の皆さまと共に子ども家庭支援事業を続けてきました。然しながら、まだまだ家庭内で悩みを抱えながら日々を過ごしている子ども達が多くいる事があります。そこで必要となるのが地域の力だと思えます。一見すると、何ら違和感のない風景でも、そこに暮らしているから分かる事があると思えます。

そうした、地域の気付きや声かけなど、地域全体での温かい見守りが大事だと思えます。

現在、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、少子化の進行と共に地域消滅の機を迎えています。いま一度、地域から子どもの人権を柱に据えた、日本の子育て文化を創る必要があるのではないで

しょうか。

平成29年1月25日、鳥取県社会福祉協議会を基幹とし、「えんくくるり事業」(生計困難者に対する相談支援事業)の趣旨に賛同し参加する社会福祉法人との協働事業が発足しました。当法人も当該事業に賛同参加する中で、「えんくくるり事業」の1周年を迎える平成30年1月25日に社会資源開発の第一号として実施主体となり、「子ども食堂及び学習支援」を実施内容とする「たちかわこどもクラブ」を開所しました。

その中で、「たちかわこどもクラブ」は、地域で子どもを大切にするための「子どもと大人の楽しい居場所」となる事を目指すとともに、当法人が培ってきた「専門性」を発揮して支援体制を整え、特色を生かした「居場所」作りに入力しています。また、子ども達との関わりにおいては、複数の中でも「個」を尊重した1対1の関わりを大切にしています。同時に、継続した支援ができるよう、保護者の方の困り事や悩み等を傾聴できる体制・環境作りを心がけています。

運営内容として、「食事」「遊び」「学習」の三つの柱を立てています。それぞれに、法人スタッフでコアメンバーを決め、企画・準備物・広報等について検討する仕組みを構築しています。その上

で、毎月一回のスタッフ会議を行い、現状と課題について検討を重ねてきました。利用者のニーズの把握とそれに応える。今ある環境で出来る事から取り組む。走りながら課題を検討していく。継続することが大事。等々を合い言葉にあり方を模索中です。

今後、この「居場所」を多くの方に繋げていく事が出来るよう試行錯誤を重ねながら、地域の子ども食堂となるべく地域への働きかけの継続と土台作り(地域組織化活動)に協力し、ニーズの把握に努めていきたいと思っています。

たちかわこどもクラブが「子どもと大人の楽しい居場所」となれば幸いです。

新任職員の自己紹介

◆ふじホーム



保育士

中西 保乃加

4月よりお世話になっております。

あまり縁の無い土地での生活と、これまで不慣れな部分や分からないことも多くありますが、子どもたちと一緒に成長し、一瞬一瞬を大切に、一生懸命頑張っています。

よろしくお願ひします。

◆さくらホーム



保育士

細田 未来

今年度からお世話になります。鳥取の東部で生活するのは初めてなので戸惑いもありますが、新鮮な気持ちで一杯です。ホームの生活にもはやく慣れ、子どもたちが安心して生活できる環境をつくっていただけるよう頑張ります。

◆つくしホーム



児童指導員

岡本 光生

今年度より皆さんに会えることを楽しみにして来ました！私は、自分がこどもだった頃の気持ちを忘れず、こどもの味方で居続けます。

皆さんに助けけていただきながら、一杯頑張りたいと思います。べつぞろしくお願ひ致します。



◆たんぽぽホーム



児童指導員
角田 美月

この春からみなさんに会えるのをとても楽しみにしていました。わたしは子どものところからホッケーをやっていて、体を動かすことが好きなので、明るく、元気いっぱいがんばりたいと思います。よろしくお願ひします。

◆すみれホーム



保育士
清水 ゆづ子

すみれホームで会う子どもたちが、少しでもほっとできる瞬間があるといいな、と思ひながら時間を共にしています。

子どもたちの為に私自身少しでも成長していかれたらと思います。ぜひよろしくお願ひします。



支援員
津村 雄一

今年度よりお世話になります。鳥取県内の中学校で14年間、教員として働いて

鳥取子ども学園乳児部

出逢いを通して思うこと

ブロック長 小林 有美子

おりました。趣味はスポーツと旅行です。わからないことが多くて迷惑をおかけすることもありますが、よろしくお願ひいたします。

今年も校士手には見事な桜が咲き、私たち職員、子どもたちの気持ちをほっこりさせてくれます。今年も暖冬だったため、入園、入学式には残念ながら少し散ってしまいました。この春には数名の子どもたちが乳児部から新しいおうち(それぞれの家庭や児童養護施設)に巣立っていました。新しいおうちに移る前は、子どもの心は揺れているんだと思います。毎日のように、「今日は○○ちゃんへるかなあ」「○○ちゃんへるかなあ」と担当職員の名前を頻りに耳にします。しかし、担当職員が毎日いるわけではありません。そこで傍にいる職員の声かけが大切になります。少

しても安心できるように、「△△ちゃんはお○○ちゃんが大好きだもんね。今日はいないからゆみちゃん(私のこと)と遊んだり、ねんねしよつか」と私が言つて、「子どもたちの方から必ず「ゆみちゃんでもいいよ」と言ってくれます。

私は、子どもと関わるうえで7つのことを大切にしています。

1. 子どもの問いかけには、たとえ用事をしていても、手をとめてからだを向けて聞く姿勢をとる。

2. 「○○してくれてうれしなあ」「○○するなんて○○ちゃん悲しなあ」と自分や相手の気持ちを言葉にして伝える。

3. 子どもたちと遊ぶ時には、自分自身が『遊び心』を持ち、子どもと一緒に楽しむ。

4. 何があってもまず子どもたちを受け取る。

5. 頑張っているね」と認める。

6. 「ありがとう」「うれしうね」「助かったね」と感謝を伝える。

7. 「エヘヘ」「オハハハ」「オハハハ」したね」という肯定的な言葉を選んで子どもに伝える。

私なりの考え方はありますが、このように意識することによって、大切にされているんだなあ、と

感じてくれるのではないかと信じています。その日々の営みによって、子どもが心地よさを覚え、やる気が芽生え、成長へと繋がると思います。

最近のつれいふエピソードを伝えます。

○人見知り強いAちゃん。特に男性職員にはなかなか慣れない日が続いていました。そんな時そのAちゃんと一緒に入浴した男性職員。Aちゃんはお風呂からあがってきてもずっと泣いていました。

男性職員に「えらかったですね。泣いていましたね。しんどかったですね」と声をかけると、「じやじや、僕ではなくてAちゃんが一番えらかったね」「ごめんね」とAちゃんを見つめながら言われま

した。私はその言葉にはっとさせられ、目がしらがあつくまりました。なぜか、その日をきっかけにAちゃんの心は男性職員に向いたように、人見知りがなくなりまし

た。瞬間、瞬間を生きている子どもも、同じ感覚(リズム)で答えてくれる職員に心をゆたわせたのだと思います。とても素敵なことですね。

○Bくんはぬいぐるみを片時も離さず、もっています。そのぬいぐるみは、ずっとBくんを不安から守ってくれているとても大切なものです。しかし、ある時からぬいぐるみがなくても過ごせるように

なりました。それは、日々の変わりない生活が安心感を育み、愛着がぬいぐるみから人へと移行したからだと思います。Bくんは「〇ちゃんいっしょ」と他児に



職員の手を譲ってくれたり成長していきました。乳児部は、育ちをつなぐ大切な役割を担っています。Bくんがお兄ちゃんになるうれしさとその反面、新しい養育の場に託すことに心寂しさも合わせもつ複雑な気持ちがあります。4月からブロック長という立場になり、職員の横の繋がり、チームワークを大切に、これまでの子どもとの出会いを通して学んだことを伝えていくことができたらと思っています。乳児部で大

切にすべき養育とはどういうものなのかを共に考え、職員みんなで日々精進できるように努めたいと思います。

新任職員の自己紹介

◆さくらんぼホーム



保育士
米本舞子

はじめまして。子どもたちと共に成長をする中で多くのことを学び、吸収していきたいと思っています。まだまだ未熟ではありますが、よろしくお願ひします。

◆かりんホーム



保育士
今井由佳

不慣れなことが多くご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、1日でも早く仕事を覚え、そして子どもたちとの距離を縮められるように笑顔を絶やさず、精一杯頑張りたいです！

◆くるみホーム



保育士
油浅友子

喜び、驚き、反省の毎日を通じておりま。

一日も早く環境に慣れ、職員皆さんと円滑な連携を取れるようになること、子どもたちにとって安心できる存在になれることを目標に努めてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願ひ致します。

児童心理治療施設
鳥取子ども学園希望館

子どもへの「温かい眼差し」
子ども時代の思い出づくりを大切に

副館長 藤野謙一

子ども時代の思い出は、大人にとっては些細でも一つ一つの小さな出来事が子どもにとってはインパクトがあり、一生心に刻まれるものです。

大変恐縮ではありますが、僕の記憶の引き出しから少しだけ幼少期の思い出を書かせていただきます。僕は幼少期に東京の吉祥寺駅のすぐ近くに住んでいました。親が多忙だったため、3歳上の姉と二人で吉祥寺駅近辺をウロウロしていました。今の時代では、ネグレクトだといふことで児童相談所に連れて行かれてもおかしくないところですが、当時は吉祥寺駅近辺の地域の方々にとっても可愛がられていたと思います。印象に残っていることをいくつか挙げてみます。タバコ屋のオジサンは、いつも売り場の窓ごしで「コマ回しの技(綱渡り等)や手品を見せてくれました。それが見たくて何度もタバコ屋さんに通いました。今思えば明らかに夜の店のママさん風(いつも着物を着ていた)の方が、歩いている僕を呼び寄せ「可愛いねえ、これあげる」と飲み屋のつまみ(?)をくれました。しかし、あまりにしつこくベタベタしてくるので子どもなりに、そこには近づかないように避けていました。家族ぐるみで交流していた「べわらん堂」というライブハウスの中に入ると暗くて爆音で音楽が流れていました。そこでご飯を食べさせてもらった記憶があります。バターがたっぷり塗られた、分厚いトーストの味は今でも忘れられません。後から知ったので



すが、そこは「伝説のライブハウス」で当時のミュージシャン、漫画家、詩人等々(なぎら健吾、坂本龍一、川崎のぼる、水木しげる他)が多く出入りしていました。僕を背中に乗せてお馬さんになつてくれた「髭爺(ひげじい)」、遊んでくれた「下駄(ゲタ)さん」・・・思い出はつきません。僕が大学生になったとき、自分のルーツを求めて吉祥寺に行ったときは衝撃でした。幼少の僕が探索していた大海のように思われた路地のなんと範囲が狭いことか！大人にとっては小さな世界でも子どもにとってはその世界は大きいことを学びました。

この思い出に共通することは、地域の大人が大人らしくあり、「温かい眼差し」を子どもに向けていることです。記憶といつのは大抵美化されるのですが、肯定的に残った記憶は前へ進む糧になると思います。

OB・OGと昔の思い出話しをするとき、こちらが覚えていないような些細な出来事を懐かしそうに話をするのがよくあります。その中には、一般的に言う「ダメな職員」とされがちな職員とのエピソードも多く語られます。子どもたちは職員と生活する中で、その職員の振る舞いを個性として受け止めていることがよくわかります。法人全体の職員も含め

希望館の職員は、個性派集団です。希望館には昔の吉祥寺の駅前同様の「コミュニティ」があると思っています。「働き方改革」、「リスク管理による監視社会」、「専門性」を取り違えた金太郎飴のような職員育成」に世の中が傾いている。今、我々は聖書の「体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。「コリントの信徒への手紙1(12:14-15)」にもあるように、職員それぞれの個性が発揮されて一つの組織、一つの「コミュニティ」を形成していきたくと思います。その際、もちろん「治療的な」という視点は必要かもしれませんが、子どもたちの人生にとって様々な人との関わりでの「受け止められ体験」(先ほど述べた大人からの温かい眼差しを受けた記憶)は、子どもがこれからの人生を歩んでいくうえでこの糧となりうることを肝に銘じたいと思います。

今、この原稿を書いている最中にも鳥取県で3人目のコロナウィルス(Covid-19)の感染者が出ました。評議員である慎泰俊さんの分析によると最低でも18か月はこの状態が収束しないことが予測されています。あらゆるイベントや日常が制限されているこのような非常事態

態の中、我々は子どもたちと共に創意工夫をしながらこの危機を乗り越えていかなければなりません。そして、このような状態の中では、如何に大人たちが「温かい眼差し」をもって、子どもたち自身が子ども時代の思い出づくりをすることができると鍵になると思います。

日頃、学園を支援くださったっている読者の方々は、陰で子どもたちに「温かい眼差し」を送ってくださっている方々です。感謝と共に、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

新任職員の自己紹介

◆しらゆりホーム



児童指導員
岩崎 鮎子

分からない事はばかりで職員の方や子ども達に教わる毎日です。少しでも早く仕事を覚え、子どもたち一人一人に心の余裕を持ちながら丁寧に関わられる職員を目指して頑張りたいです。これからも宜しくお願い致します。



保育所
鳥取みどり園

就任のご挨拶



園長
西垣 恭子

創立記念樹の桜並木が満開の4月、鳥取みどり園に着任いたしました西垣と申します。鳥取ごも学園の中にあり、キリスト教精神にもつき創立された歴史ある園に勤務できますこと、身の引き締まる思いです。

さて、キリスト教保育は、「子ども一人一人が神によって命与えられた者としてイエスキリストを通して示される神の愛と恵みのもとで育てられ、今の時を喜びと感謝を持って生き、そのことにより生涯にわたる生き方の基礎を培い、共に生きる社会と世界を作る自律的な人間として育つために保育者がイエス・キリストとの交わりに支えられて共に行う意図的、継続的、反省的な働きである。」というキリスト教独自の保育指針に基づき日々の保育を行っており、子ども達は、自分も友達も神様と一緒に生活し神

様に守られているという安心感の中で、自分らしさを発揮し大きくなっています。

養成学校を卒業後44年間保育の現場で過ごしてきました私ですが、キリスト教保育とは全く無縁でしたので、初出勤の朝は随分不安な気持ちでの出勤となりました。しかし、園内に響く先生のきれいなオルガンの演奏に合わせ、賛美歌を歌い、お祈りをしている子ども達の清々しく明るいう声が、私に勇気を出して頑張れと応援してくれているような幸福感を覚えたものです。

今年の入園式は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、お世話になってます地域の皆様のご臨席は叶わず縮小した形での式となりましたが、保護者の皆様と一緒に慶びの日を祝うことが出来、神様がくださった新しい友達と過ごす一年がスタートしています。

幼児部棟の子ども達は、おひさまと一緒に広いグラウンドの周りをぐるぐる回り、元氣一杯にマラソンを楽しんでいます。乳児部棟の子ども達も、それぞれに好きな先生を見つけ、膝にちよこんと座わったり抱っこをしてもらったりすることを喜びながら、安心できる居場所を見つけています。

新型コロナウイルスの影響で、一日中マスクを付けての生活であったり、乳児

部と幼児部の子ども達が関わって遊ぶ異年齢児保育ができなかったりと、いろいろなことが制限されながらの園生活ですが、子ども達は多くの仲間や先生と一緒に「今」を楽しみ、未来へ向かって力強く歩んでいます。私も、この鳥取みどり園で子どもと共に生活できる日々感謝しながら、一歩一歩前へ進んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

新任職員のご自己紹介



副園長
川下 泉

桜満開の中、ご縁を頂戴致しました。4月早々、4歳児が「白くなった。前はピンクだったのに。」と声を掛けてくれました。花色の変化を感じ、言葉で表現し素晴らしい環境の下、感性豊かな園児の成長に寄り添わせて頂ける事に感謝します。どうぞよろしくお願ひ致します。



保育士
中島 真由美

子どもたちが毎日楽しく、安心して園生活を送れるよう、一人ひとりの関わりを大切にしていきたいと思えます。至らない点もあると思いますが、よろしくお願ひ致します。



看護師
大西 理香

毎日、園児と元氣いっぱい楽しく過ごします。よろしくお願ひ致します。

診療所
子どもの発達クリニック

葉桜の季節に想う

川口 孝一

毎年歓送迎会の季節は複雑な想いになります。

桜の花が綺麗に咲き、そして散っていきます。桜の花びらの絨毯や葉桜もまた

綺麗です(因みに個人的には、身も心も引き締まる少しひんやりと澄んだ秋空の下に咲く凜とした白いコスモスの花が好きです。修飾語、長〜)。私は今、ここに居てどこに行けるのかなあ、と想います。私も昨年遠征を迎えました。あっといふ間だったように感じます。還暦だといふ実感が全くありません。それは私がいまにも未完成、未熟だからなのだと思います。

2020年4月でこのころの発達クリニック(愛称「こころ」)も11年目に入りました。そしてクリニックの形態も機能も大きく変わりました。診療時間を大幅に短縮し、私は創設以来の古巣である児童心理治療施設(因みに我々の福祉領域の業界では『治療』とは単に『病気を治すこと』とは違って、『過去や現在の自分や環境との折り合いを付けるために子どもたち・ご家族と一緒に取り組むこと』と考えています)希望館の常勤精神科医を兼務することになりました(目から鱗が落ちる様な少し違った視点からの鋭い助言を下さっていた池成医師は退職されました。このような変革をしたのは、広い意味での精神科医療が法人施設入通所・相談来所児童さんやそのOB・OGさんとの関りをより強くするためです。



『こくり』が縮小となると、私の事よりも皆さんの心配は、クリニック開設当初から看護師・保健師として私たちと伴に働いてきた皆さん(患者さんやそのご家族、法人スタッフ)にとっても癒しの存在である岡田さんの去就ではありませんか。大丈夫です。『こくり』に残ります。これまでも看護師・保健師業務以外にも医療クラークの業務もやってもらっていたので、岡田さんが居なくなると『こくり』は回らなくなりません。事務の由井さんも心配なく、通所部門で子どもたちにより近いところでお仕事をされます。

『こくり』の10年間は、多くの方々(特に患者さん)に愛され育てられ支えられて来ました。あつという間の10年間でした。嬉しいこともたくさんありましたが、それ以上に悲しいこと辛いこともたくさんありました。そんな山あり谷ありの道を伴に歩んでくれた皆さんに感謝致します。本当にありがとうございました。

私も「もういいよー」って言うつもりでその日が来るまで、もう少しここに居させてもらいます。『こくり』を私たちがこれからも引き続きよろしくお願い致します。

森山直太郎さんの「生きていくのが辛

いなら」の歌にある様に、『くたばる言ひ』はもう少し先に取っておこうと想います。

児童家庭支援センター
子ども家庭支援センター「希望館」

日々の学びに感謝

所長 山中 八寿子

今年も鳥取子ども学園希望館(教育棟)の玄関先にある2本のハナミズキの花があでやかに咲いています。子ども家庭支援センター「希望館」に就任し、子どもとその家族の福祉に関わり1年が経過しました。あつという間でした。

ここに就任するまでは、地方自治体の子ども家庭相談支援に10数年関わって来ました。もう少し平たく言えば、児童のいる家庭の子育て支援を行いながら安心して子育てが行えるよう環境を整え子どもの虐待に至らないよう努めてきました。

皆様もご存じのとおり、「児童虐待」は家族などの大人が子どもに行つ言動なので、まずは安心して子育てが行えるよ

う大人への関わりを丁寧に行ってまいりました。

具体的には、妊娠期から関わることにより妊娠・出産・子育てを応援し、必要に応じて子育て支援を行ってきました。そつすることで妊産婦さんや子育て期の親御さんのニーズをいち早くキャッチし応援し、必要に応じて支援を行うことが可能となりました。今、国は市町村の地方自治体に対して「子育て世代包括支援センター」を設置し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない包括的な支援を行うよう求めており、鳥取県内の19市町村全て設置しております。(鳥取県は取り組みが進んでいます。)

何が言いたいのかと思われたと思いますがここからです。

私事ですが、前述したように、これまでは子育てを応援するため大人への関わり(支援)をメインに行っていたので、こちらに就任してからの子どもや親への関わりの中で、ともすれば子どもの思いや意見が後になっていることに気づかされ「はっ」とさせられることがありまして。このように、日々大切なことに気づかせてくれている子どもたちや職員に感謝しながら毎日を過ごしております。

子ども家庭支援センター「希望館」は、子どもたちのあらゆる相談に応じる児童

相談所の相談機能を補完するところで。就任して2年目の私と一緒に働いている優秀な職員と共に子どもたちのあらゆる相談に応じ子どもたちとともに歩んでいけたらと考えておりますので、本年もよろしくお願いいたします。

※家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆる相談に応じています。

相談料は無料です。

○電話相談

月曜日～金曜日 朝8時30分～夜12時

(緊急の場合は、休日、祝日、時間外も24時間対応)

○来所相談

開所時間 月曜日～金曜日

朝8時30分～夕方5時30分

専門の相談員が対応します。



鳥取県里親養育包括支援事業
里親支援とこころ

ある少女の物語と里親養育費

所長 遠藤 信彦

先日、おもむき深い物語作品を鑑賞しました。療養のため田舎に訪れた主人公の少女と、それを取り巻く人達の、こころの繊細の繊細な表現が、湖畔の町の風景描写とあいまって大変に美しく、胸を打たれました。物語の後半、主人公が親友に、気がかりに思っていることを告白します。それは『自分の養育者が、自分を育てるために、おおよけのお金を受け取っていること』について。主人公は里子であったのですね。

様々な事情で、自分の家庭で暮らすことができない子どもを公的にあずかり、長ければ子どもの自立まで、短ければ数ヶ月、子どもが自分の家庭に帰ることが出来るまで、自らの家庭で愛情深く育てて下さる方を養育里親と言います。養育里親には、子どもを育てるのに必要な費用が、ほぼ全て国と県・市からのお金「公費」で支払われます。この里親養育費には、里親に対する報酬である

「里親手当」も含まれています。この「手当」は「お給料」とは言えず、365日・24時間のお役目に対して、時給に換算したならば大変に少ない額となっております。また、さきほど「ほぼ全て」と書きましたとおり、公費で支払われないものがあります。例えば、一般のご家庭ですと、ときおり家族旅行があり、例えば、USJに出かけてミニオンズと写真を撮ったりしますが、里親養育費には「USJに出かけてミニオンズと写真を撮る費」はありません。また、子どもの七五三の時、かわいい服を着て記念写真を撮ることが多いですが、里親養育費には「かわいい服を着て写真を撮る費」はありません。こういった、公費でまかなわれないものについても、里子の育ちに必要だと思えば、里親は、自身の財産を提供します。里親のボランティアに支えられている制度と言えます。そして、支えているのは里親だけではなく、ランドセルを寄贈して下さる企業があったり、進学を助成して下さる団体があったりします。さきほどの七五三の話で言えば、嵐・TOKIO・Hey! Say! JUMPなどで有名なジャーナズ事務所グループ会社が、全国の施設、里親家庭の子どもに七五三のお祝いをくださっています。

ある里親は、この作品の感想を「子どもが里親に、愛情だけをもとに育てられているとばかり思っていたところを、手当をもらっていると知ったら、複雑な思いになるかも知れません。実は里親も、そのことについて悩むことがあります。しかし、里親と里子は、こういった時にもかさねて、絆を深め、互いに育ちあつてです。私はこの物語を我が家の三人の里子たちと一緒に楽しみました。子どもたちの育ちの助けになると思ったのです」と語っていました。

主人公は、物語を通して、過去と現在の、さまざまな人達の生き様に触れ、里親のひたむきな想いに気付き、自分の受けとめ手と認めます。どの里親家庭にも、日々のいとなみにおいて、数々のドラマがあります。その中で、里子たちはすくすくと育っています。

自立援助ホーム
鳥取フレンズ

統括寮長 山中 友子

令和元年度、鳥取フレンズは、女子4名、男子2名でスタートしました。この

一年間で3名が退所、2名が入所し、令和2年度は、女子2名、男子3名でスタートしています。加えて、退所後のアフターケア支援を引き続き行っています。

退所していった子たちの中で気になるのは、本人の思い望んだ形ではなく退所していった子です。現在は、ツイッターなどSNSの情報でその子の様子を想像するしかない状況です。フレンズを離れる直前も、寮長をはじめ職員に連絡していました。退寮後も連絡がありました。本人の決断なのか、周りに流されたのか、退寮することを決めていました。こちらでどのような支援ができるかわかりませんが、本人が振り返り、前に進むとするときがあれば、自分の意思を持って、連絡・相談してほしいと思います。

先日、十年以上ぶりに鳥取フレンズへ電話をしてきてくれたOBがいます。彼がフレンズで入寮していたころは、仕事が続かず、生活も荒れていました。その後、退所児童等アフターケア事業ひだまりにお世話になり、丁寧に関わっていただき、地元へ戻った、と聞いていました。本人は、「何か伝えたいことがあった訳ではない。」と言い、私からの質問に答える形で、「結婚して子どもができ、3人で暮らしている。仕事も頑張ってい

る。」と教えてくれました。私自身は、何かあったのではないかと内心では思いましたが、「別に、何もなくて。」とのこと。どうであれ、元気で暮らしていることを聞き、本当にうれしく思いました。

退所後、連絡が取れる人は限られていますが、連絡があるとかほっとします。力をもらっています。彼ら、彼女らは、きっと、退所してからいろいろあり、否応なく「自分」を突き付けられ、自分自身と向き合っているのだと、少しづつ力をつけていくのだろうと想像しています。そう考えると、いまフレンドで生活している間に、少しでも自分を見つめ直し、周りに流されたものではなく、自分自身に合った生活の方法を見つけたいと思います。そしてあなたが求めれば、支援者はいるということも伝えていきたいと思います。

新任職員のご自己紹介



支援員 千村 美智子

料理は苦手なのですが、フレンドの皆さんにフォローしていただきながら、楽

しくお仕事をさせていただいています。毎日笑顔で頑張ります。よろしくお願いたします。

自立援助ホーム 鳥取スマイル

寮長 田村 崇

令和2年度、鳥取スマイルは5名の男性がそれぞれの自立へ向けてスタートしています。今回この学園だよりは、一人一人の若者に以下の事柄を聴きましたので紹介したいと思います。以前倉吉スマイルの時に一度やりましたが、こんな若者たちが今スマイルで生活しているんだあとイメージしていただければ幸いです。

質問：①スマイルの食事で好きなメニューは何？

- ②今一番やりたいことは何？
- ③今働いている仕事の作業で得意なこと、好きなことは何？
- ④将来の夢は何？
- ⑤好きなゲームは何？
- ⑥好きな芸能人は誰？

⑦今自由に使える100万円あったら何に使いたい？

A君：①ロールキャベツ、煮込みハンバーグ、カレー、②ユーチューブを見る事、③基本的には全部得意！アクセサリーのテープ止め、④物づくり系の職に就きたい、⑤逆転オセロニア、ポケットモンスター、⑥ノンスタイル、ミキ、流れ星、サンドウィッチマン、タイムマシーン3号、大原櫻子、⑦スイッチを買う、玩具を買う、課金する。

B君：①カレー、②ないです、③総菜の盛り付け、④一人暮らし、⑤モンスターバンドリ、オセロニア、白猫、⑥なし、⑦スイッチ、貯金。

C君：①塩そば、②釣り、③ハンバーグの種つくり、④結婚して家庭を持ちたい、⑤オセロニア、モンスター、⑥ليس a、⑦本棚が欲しい、貯金。

D君：①茶碗蒸し、カレー、マグロの漬け丼、③卓球、④卓球の監督！コーチ、⑤プロスピA、プロ野球サイン、⑥四千頭身、サンドウィッチマン、BTS、N ONSTYLE、陣内智則、⑦卓球関係の道具、残ったら貯金。

E君：①カレー、②旅行に行きたい！③基本全部得意です！④自分の家を建てる、⑤Shadowers、⑥水瀬いのり、⑦好きなものをたくさん買いたい！

F君：①まだわからない！②バスケット、③調理です、④保育士になりたい！⑤マイクラ、⑥ながのめい、⑦貯金です。

ざっと文字にしてみました、伝わりにくいですが、みんなどうしよう？あれかな？など会話しながら楽しそうに答えてくれました。①は断トツでカレーでした。知る人ぞ知る〇〇さんのカレーかな！③では自信をつけながら次のステップへ向かっている姿が浮かんできます！⑤のゲーム：わたしにはわからないものがあったのでした。

一人一人違うんです。好きな物や人、将来の夢、欲しいものややりたいことも。時が経てば変わって行くこともあると思います。でもそれでいいんだと思います。今の好きー今のやりたいーを大切にしたいなと思います。大切にしたいなと思います。思いやりと優しさ、尊敬する心と感謝の気持ちを忘れずに…。

鳥取養育研究所

運営委員 内藤 直人

鳥取養育研究所は長年、鳥取版子どもアドボカシー機関の設立に向けて、活動を進めてきました。特に、昨年の12月20日、元カナダ・オンタリオ州子どもアドボカシー事務所所長アーウィン・エルマソン氏を迎え、鳥取大学で国際シンポジウムを開催しました。230名を超える参加者が集まり、支援者だけでなく、今、現在、社会的養護下で生活をする子ども・若者も多く参加してくださいました。国際シンポジウムはアーウィン・エルマン氏の講演だけでなく、日本からカナダにわたり、アドボカシーについて学んだ4人の若者たちのスピークアウトも行われました。その中では、子どもあるいは若者と『一緒に』歩むことの大事さが伝えられ、これからの社会的養護や子どもの養育に関わる全てに必要なことが示されたのではないかと感じています。アーウィン・エルマン氏は『一緒に』といふことばにも、子どもや状況に合わせた『一緒に』があること(例えば、横並びに歩く時もあるれば、少し前を歩いた

り、後ろを歩いたり…)を講演で話されており、その懐の深さを感じる事ができました。

また、若者たちのスピークアウトは我々、支援者以上に参加した子ども・若者にとって、よい意味でも刺激的なものでした。私が所属する自立援助ホームからも数名の若者が参加しましたが、会が終わった後、車の中、あるいはホームに戻って会の感想や自分の思いを語るものもいました。そついつた思いが、何かに刺激されて表現されることはとても大事なことです。一方でこれが日常的に表現される仕組みを作ることが、鳥取版アドボカシー事務所の根幹なのではないでしょうか。

今年度はアドボカシー事務所の設立に向けて、昨年立ち上がった子どもたちの会を発展させるとともに、子どもアドボカシーについて学びを深めたいと考えております。

しかしながら、コロナウイルスの関係で思うように鳥取養育研究所の活動が進められない状況があります。一方で、この状況だからこそ、養育のあり方について多くの学びがあるようにも感じています。例えば、日ごろ、気を付けているつもりでいた衛生管理について、不十分であることに気づき、また何より「命を守

る」ことの大事さを感じることで、養育の根幹について考え直すこともできていくように思います。不自由であるからこそ、「生活の価値」についても見つめ直すことができているのではないのでしょうか。

障がい福祉サービス事業

はまむら作業所

はまむら作業所、元気です。

管理者 山岡 宏樹

はまむら作業所に9回目の春がきました。スタッフ、作業所利用メンバーも新たに増え、気持ちも新たに活動を続けています。

いつもであれば、この季節、お花見やレクでの外出など、利用メンバーと希望を一緒に叶えていく事ができる時期です。しかし、新型コロナウィルスの影響もあり、みんな「不自由な

を感じている今日この頃です。作業だけでなく「関わり」を求めている利用メンバーも多い一方で、事業所としては、感染予防に努めなければならず、今回の騒動がもたらした利用メンバーの日常生活し辛さ、活動し辛さを感じる胸が締め付けられます。

少し話は変わりますが、私達は、今、何年も活動しているらつきょう畑の草取りなど、天気や体調と相談しながら外作業に参加しています。農福連携事業の協力事業主さんの協力もあり、このような情勢では、外で活動ができる事が大変ありがたく思います。大自然の中からだを動かす、草取りに没頭できる時間は、普段あんまり感じていなかったのですが、意外とリフレッシュになっています。

はまむら作業所に関わるみなさんが、少しでもホッとできる時間、安心して日々の活動ができる時間が戻ってほしいと切に思います。今は、スタッフ、作業所を利用メンバーもバランスのよい食事、睡眠をしっかりとして、一日も早い終息を、楽しい日中活動の実施をのんびり行えるようお願いいたします。元気があれば何でもできるので。

事業所内保育施設

とりっころんど

二年目を迎えるにあたり

保育士 田中 微美

事業所内保育施設とりっころんどは、開所して1年が経ちました。おかげさまで、2年目の春を迎えます。

私は昨年度、児童養護施設からとりっころんどに異動になり、初めて乳児保育に携わることになりました。初めての0歳児を担当することになり、ミルクの作り方やおむつの換え方などを覚えることから始まりました。子どもたちは甘えたり、ぐずったり、泣いたり、様々な方法で保育者にサインを出して欲求を伝えます。初めての体験に戸惑うことも多く、子どもたちの不安をやわらげるためにはどうしたらいいのだろうかと考えている時、これまで私が出会った先生のことを思い出しました。笑顔で話しかけてくれる先生、一緒に遊んでくれる先生、面白い話をしてくれる先生、話を聞いてくれる先生が思い浮かびます。まずは、一人ひとりのペースや気持ちを受けとめながら、笑

顔でたくさん遊ぼうと思えました。

子どもたちの成長は日進月歩で、それぞれペースは異なりますが、子どもたちの様々な姿にあたたかい気持ちになります。入園当初、毎日何時間も泣いていた子が笑顔で登園するようになったり、友だちが泣いていると近寄り「だいじょうぶ」と声をかけたり、わからない言葉で一生懸命何か伝えようとしたり、恥ずかしさから名前を呼ばれると寝返りで返事をしたり、お昼寝をしたら体力が元通りになったり…。たくさんのエピソードがあるので書ききれませんが、子どもたちの素直な反応や子ども同士の関わりに感動したり、驚いたり、思わず笑ってしまっことも多いです。時には、子どもたちの予想もつかない行動やあれもこれもイヤイヤな時期に、私たち大人が右往左往することもありますが、子どもたちの伝えようとする気持ちに添えていきたいです。

3月末、入所児童8名中4名の子どもがとりっころんどをお別れしました。この1年で子どもたちのできるが増え、一人ひとりの成長を近くで感じました。とりっころんどで過ごした経験が、いつか子どもたちの「何か自信がもてることや自分を好きになれるこ

と」につながればいいなと思います。

最後に、1年間で出会った子どもたちや保護者の方々、地域の方々のおかげでとりっころんどは1周年を迎えることができました。ありがとうございます。2年目も出会いを大切に、子どもたちが安心して楽しく過ごせるように笑顔で頑張りたいと思います。



新任職員のご紹介



保育士

中山 奈津子

子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう配慮してきました。

いろいろなお子さんとの出会いも楽しみにです。よろしくお願します。



保育士

森川 生子

令和2年1月よりコロナウィルスの渦中十数年振りに縁あって学園の土を踏ませて頂きました。

こどもたちの元気を源に安全・安心を心掛けながら、寄り添うことが出来れば幸いです。

色々なことを学びながら頑張ります。宜しくお願い致します。



保育士

上田 八重子

とりっころんどで子どもたちと過ごさせて頂き、可愛いしぐさ・言葉に癒され、元気をもらっています。

安全に配慮し、日々の成長を見守りたいと思います。よろしくお願します。



退所児童等アフターケア事業

ひだまり

就労支援員 山根 潤子

退所児童等アフターケア事業は、鳥取県内の児童養護施設等を退所した方や、退所を控えた児童へ生活支援・就労支援・自立研修開催・施設出張訪問等を行っています。

アフターケアの利用者さんは、30〜40代の方も多く、住居、金銭、人間関係、仕事関係など問題が発生し、やっとのこととさまざまな関係機関の力を借り解決、その後、順調だと思っても、また問題が蓄積されてつながることや、自ら連絡をくれること、気がつくことも多々ありました。

ひだまりが2008年に開所してから12年、当初から走り続けてきた前所長中嶋進一氏が3月末をもって退職いたしました。職員一同、感謝と共に今後のご活躍を応援しています。ご指導いただいたことなどを活かし、関係機関との関わりを通じて時代の変化に合わせた新しい形を作っていきたいと思えます。

4月からは、新所長に岡本秀人、協力してくださる方を迎え、5名で進めてま

いります。

今年度は、①新体制の構築、②アフター支援に関わる資源の活用と機関との連携や協力、③入所中からの関係づくり(対象者や施設職員)をおこなっていく予定です。

また、おかげさまで、第4回「ソフトバンク・チャリティスマイル」社会に巣立とう応援助成金が決定いたしました。『退所後の豊かな未来を目指すつながらバトン事業』〜自立研修開催の継続と職業イメージを作るキャリア形成支援の実施〜のひとつとして、職場見学・体験の機会提供準備と協力企業様開拓を進めております。

4月には、東・西部の施設のひだまりの窓口担当となつてくださっている職業指導員の方などに声をかけさせていただき、協力企業様開拓時に一緒に訪問をしました。安心感のある機会提供をおこなえるよう施設職員さんの協力も得ながら活動に取り組めます。

日々の支援だけでなく、法人内外での活動理解や発信、関係施設間での研修参加にも努力を重ねてまいります。地域の皆様、関係機関の皆様には常口頃から、ご指導ご鞭撻をいただき感謝しています。なかなかコロナウィルス感染症の関係で思うように活動が進められない状況

が発生していますが、我々にできることを考えていきますので、どうぞ変わらざるのたくさんの応援をくださいますようお願いいたします。

所長就任挨拶



所長 岡本 秀人

本年4月より『ひだまり』所長を拝命した岡本秀人と申します。鳥取移住4年目で、因州弁の理解はまだまだですが、OB・OGの皆様方の生活・就労・その他もろもろのご相談に預らせていただきます。宜しくお願ひします。

誰もが尊重され、大切にされる社会を目指します。全ての方の「かがやき」を見つけて、大切に育むことを本務と心得ています。

就労支援事業

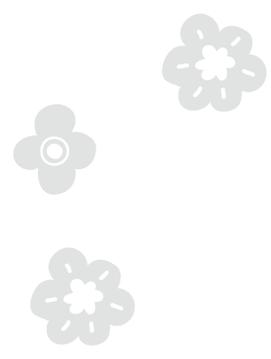
2年目を迎えて

事業責任者 松原 雅子

ジョブサポは、厚生労働省鳥取労働局の委託を受けて、令和元年5月13日から、ハローワーク鳥取、倉吉、米子にて、「ジョブ・カード」を活用したキャリアコンサルティングを行っています。

「ジョブ・カード」とは、キャリア・プランシート、職務経歴シート、職業能力証明(免許・資格)シート、職業能力証明(学習歴・訓練歴)シートの4つのシートからできています。「ジョブ・カード」を書くメリットは、記入シートを書くことで、今までどんな仕事をしてきたのか、何に興味があるのか、何が得意なのか、何にやりがいを感じるのかということ「見える化」できます。また、この作業をキャリアコンサルタントと一緒にすることで、自己理解、仕事理解を深めることもでき、次の一歩を踏み出すことができるとなります。

相談者の対象は、①職業訓練を受講される方②教育訓練に伴う給付金の手続き



が必要な方③求人応募でジョブ・カードの提出が必要な方④積極的なキャリア支援が必要な方（仕事がなかなか続かず、自分に自信が持てない。応募先がなかなか見つからない。応募したいけど、一歩が踏み出せない。本当は、何の仕事がしたいのかわからないなど）となります。専門用語で難しく感じられますが、もし、興味のある方がいらつしやれば、詳しく説明しますので、ご連絡ください。

普段は、キャリアコンサルタント2名、事業責任者（電話受付兼事務）1名の合計3名で事業を行っています。

「ジョブ・カード」を作成しながら、キャリアコンサルティングを行うことで、相談者ご自身が将来どのようなキャリア（職業人生）を目指したいのか、また、そのためにどうすれば良いのか明確になります。それによって仕事について不安が解消でき前向きな表情をされることにより私たちスタッフも日々やりがいを感じて働いています。

是非、周りに、次の仕事に迷っている方、次の一歩が踏み出せない方、仕事のことでお悩んでいる方がいらつしやれば、「ジョブ・カード」を使ったキャリアコンサルティングをお勧めします。



新任職員の自己紹介



キャリアコンサルタント
松本 忠

4月からお世話になります。普段はローワーク鳥取での業務になりますので、皆さんと接する機会が少ないですが、だからこそ学園の一員であることを意識しながら日々の業務に取り組んでいきたいと考えています。

当学園事業へのご寄付
後援会へのご加入に
感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、下記のとおりです。
心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (R 1.10.29 ~ R 2. 5.12)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
柴田和仁	渡井邊利	中藤島陽一	(株)丸十
カミケドワ	あけの星	井木本野	植田公敏
(有)江村明代	根道下口	幾野	玉取トヨベ
土田村好美	竹川口	サユ一	鳥取市立城北小
田溝田信夫	広岩崎隆	武齋堀杉	島崎美智子
宇野田祥子	小原隆三	安藤内村	(株)二コ
上島武晴	トホック	柴田邊谷	(株)代表取締役
(株)トータルエナジー	高河中	柴渡大村	広高桑
伊藤川勝	信松田	村今	代表取締役
伊藤原毅	章義、悦		丸山漁業
富山佳代	木康		代表取締役
八頭更生保護女性会			雨河一

物 品 寄 付 者 (R 1.10.29 ~ R 2. 5.12)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
森 福 寺	松 下 暢 子	イオン津ノ井店	鳥取県労働者福祉協議会
岡 本 智 鶴 子	日 本 鏡 餅 組 合	フィリップモリスジャパン(同)	加 藤 光 江
U F O 吉 方	理 事 長 樋 口 元 剛	(株) ヤ マ ネ 機 材	倉 光 真 由 美
U F O 扇 町	浅 井 慶 紀	鳥 取 鶏 卵 販 売 (株)	(株)ファームSORA 湯村紀子
U F O 秋 里	袋川をはぐくむ会 栗嶋道和	エフピコ上田(株) 鳥取支店	山 根 梨 沙
U F O 安 長	黒 川 和 子	海 陽 亭	池 田 喜 美 代
サンヨーグループ総合事務所(UFO吉方店)	斉 藤 朝 子	(株)光琳グループホールディングス	南 條 芳 浩
か わ む ら	(株) 明 治	鳥 取 県 共 同 募 金 会	清 水 由 紀 子
米 田 正 雄	(株)竹中工務店 鳥取営業所	鳥 取 更 生 保 護 女 性 会	市 谷 年 弘
鳥取南更生保護女性会	(株)竹中工務店 安全衛生協会 鳥取支部	会 長 坂 尻 恭 子	(株) ジ ェ イ ス ト ー ム
会長 小宮山富美子	井 上 信 正	パンドラの箱鳥取店	衞ダスカジャパンクアテモック
全国シャンメリー(協組)	鳥取敬愛高等学校Sクラブ	矢 部 友 理 子	鳥取ヤクルト販売(株)
鳥取市立修立小学校	立川5丁目二区町内会	(株) 徳 田 商 店	田 中 仲 雄
大 樹 寺	福 田 眞	前 田 悦 子	(株) T R I B E
村 田 齊	倉 元 麻 美	山 本 正 明	修立小学校 志和智恵
(公財)資生堂社会福祉事業財団	田 中 悦 子	本 光 寺	サンクリーン鳥取
田 中 文 子	土 井 倫 子	ハ ロ ー ズ 鳥 取 店	(衞)紀ノ国屋本店 前田沙織
福 田 養 蜂 場	作 野 眞 優 美	ス リ ー バ ー 鳥 取 店	リセット 溝口智子
鳥取市立宮ノ下小学校5年生	鳥取県中小企業団体中央会	え が お (株)	無 名 氏
木 口 通	めがね工房 ジョイルック	明治安田生命保険(相) 鳥取中央営業所	

●寄付金は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106

鳥取銀行本店営業部 普通預金 7645611

山陰合同銀行鳥取営業部 普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野興一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに〇をしてご入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部 普通預金 0405970

口座名義：鳥取こども学園後援会 会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。